

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書

団体名	たじま家庭支援センター
-----	-------------

取組の名称	てんとうむしハウス（子ども食堂）・学習支援
実施場所	かわさき障害者福祉施設たじま
対象地域	川崎区内
対象地域の特色・課題	川崎区内でも、特に田島中央地区（田島町、姥が森、東綱親和会、追分、鋼管通2丁目）からなる5町内会は、障害者・児への関心があり、祭りやイベント等にも、積極的に参加を開催する地域です。また、臨港中学校区地域教育会議等でも、子どもの居場所について関心が高く、民生委員・主任児童委員も積極的に自主学習会を行なう地域です。昔ながらの住民と新たに入居してきた住民との交流の場が少なく、共働き世帯も多く、学校帰りの子どもたちが孤食へ繋がりやすい状況も伺えます。
取組の趣旨・目的	『てんとう虫ハウス』・『学習支援』（こどもを含めた居場所づくり）：家庭や学校以外で、安心・安全な場所を提供し、幼児から高齢者までが集える共生食堂を目指しています。また、小学校中学年より学習の遅れが目立ち始め、保護者からの要望で、月2回程度学習支援を開催しています。
実施内容・実施スケジュール	『てんとう虫ハウス』基本、第1週金曜日、第3週水曜日に開催しています。第1週金曜日は、小学生以上を対象とし、第3週水曜日は、2歳以上を対象としています。『学習支援』基本、第2・4週水曜日午後、小学生を対象として、開催実施しています。中学生については、要相談となります。

参加者の年代	2歳～70歳代まで	定員 (1回あたり)	70名程度
実施頻度	てんとう虫ハウス(月2回) 学習支援(月2回)	活動日数 (年間)	62日
スタッフ体制	てんとう虫ハウス 第1水曜日：地域住民2名、大学生5名、職員5名程度 第3水曜日：地域住民7名 大学生5名、職員5名程度		
連携する団体・ 連携の手法	てんとう虫ハウス：町内会会長(田島町会、姥が森町会、東網親和会、追分、鋼管通2丁目)、町会婦人部、民生委員・児童委員、田島支所みまもり支援センター、臨港中学校区地域教育会議、川崎区社会福祉協議会(各地区社協)、青丘社(桜本子ども食堂)等との連携 学習支援：渡田小学校・大島小学校開催の寺子屋		
取組実施により 見込まれた効果	てんとう虫ハウスを開催し、保護者に迎えに来てもらうことを基本とするため、保護者から子どもの現状を把握・確認することが出来ている。その中で、学習への集中・やる気・学習理解を含めて、保護者の困り感をキャッチすることができ、学習支援へとつなげられ、子どもたちの学習への集中・やる気・学習理解を保護者へフィードバックしている。 他機関とも連携することで、田島地区の共通課題や現状の子どもの困り感等をアンケート含めて、共有することが出来ている。		